

11月の植物

ホソバハマアカザ (ヒユ科)

学名 : *Atriplex patens* (Litv.) Iljin

初めてホソバハマアカザを見たのは、新籠海岸（鹿島市）でシチメンソウを探していたときでした。当時はまだシチメンソウとの見分けもつかず、持ち帰った植物を岩村会長に見てもらったところ、ホソバハマアカザだと教えていただいたことを覚えています。

ホソバハマアカザは塩性湿地に生育する1年草で海岸や河口などに群落が見られます。花期は8～10月で、茎頂や葉腋に雄花と雌花が混じって穂状につきます。雌花には2枚の苞葉があり、花が終わると果実を包みます。また、苞葉はやや三角形をしているので苞に包まれた果実がごつごつと集まってつく様子が特徴的です。

第686回観察会（東与賀海岸）では、紅葉したシチメンソウが一面に広がる脇で、堤防側の観察路と捨て石の隙間にホソバハマアカザが点々と生えているのが目に留まりました。本種の紅葉はシチメンソウに比べて控えめですが、黄色、オレンジ、淡いピンクのグラデーションを帯びたととても美しい株に時々出会います。

東与賀海岸は本種とシチメンソウを同時に見られるので、違いを観察するのにおすすめの場所です。果実に注目すると、ヒユ科のよく似た植物との違いが一目でわかります。

（文 松田 朋子）



1 田古里川河口 (2023.10.24)



2 飯田海岸 (2019.11.10)



3 芦刈海岸 (2021.11.9)



5 東与賀海岸 (2023.10.23)



6 田古里川河口 (2023.10.24)



4 東与賀海岸 (2019.8.25)

写真 2.3.4.
(井手義信)

写真 1.5.6.
(松田)

【参考文献】日本の野生植物 4 (大橋広好/編・平凡社・2017), 日本の海岸植物図鑑 (中西弘樹/著・トンボ出版・2018), 図解・九州の植物 上巻 (平田浩/著・南方新社・2017)